

目 次

P1	新支部長新任挨拶	支 部 長	黒須 重富
P1	公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 平成29年度年次大会報告	支 部 幹 事	稲葉 茂
P2	講演会の報告	支 部 幹 事	篠原 正美
P4	新合格者歓迎会・懇親会	支 部 幹 事	新井 達雄
P5	フェスタmy うつのみや報告	支 部 幹 事	西谷 元則
P6	「平成29年度技術士CPD・技術士業績・研究発表年次大会」における支部会員の受賞報告	支 部 幹 事	福田 一郎
P7	環境支援小委員会主催宇都宮市鶴田沼緑地見学会」の報告	支 部 幹 事	井本 郁子
P8	県支部幹事の新任あいさつ	支 部 幹 事	金澤 政和
		支 部 幹 事	井本 郁子
		支 部 幹 事	松原 猛
P9	支部長退任挨拶	前 支 部 長	小黒 幸市
P9	平成29年度栃木県支部行事予定表	支 部 広 報 委 員 会	
P11	栃木県支部広場 連絡事項		
	コラム	支 部 広 報 委 員 会	大岩 正通
	広報委員長のよもやま話	支 部 広 報 委 員 長	西谷 元則
P12	協賛団体の紹介 「株式会社 篠原設計」		

新支部長新任挨拶

支部長 黒須 重富

このたび栃木県支部長に選任されました黒須でございます。一言ご挨拶申し上げます。



支部運営にあたりましては、支部会員の皆様のご支援を得ながら、誠心誠意努めて参りたいと思っております。新幹事15名ともどもよろしくお願い申し上げます。公益社団法人日本技術士会栃木県支部は、発足してから5年が経過いたしました。この間、初代菅井支部長、二代目の小黒支部長を始めとする幹部および会員の皆様のご努力により、支部活動が定着しつつあるところです。今後は、これらの実績を踏まえるとともに、本部との協議や関東8県支部と連携しながら、さらに栃木らしい県支部となるよう努力して参ります。

本年度の事業については、本年6月3日に開かれた年次大会でお示した「栃木県支部 平成29年度活動方針」に従って、次の通り実施して参ります。

- ① “会員の顔の見える会” をモットーに、会員の拡大による支部の強化とともに、会員のための講演会、CPD講座、見学会、研修会等を充実させる。
- ② “地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋に” と

なるよう、市町が抱える課題に対して社会貢献活動を展開する。特に、市貝プロジェクトなどに尽力することで、地域社会との架け橋となるモデルとしたい。

- ③産学官の連携を図りながら業務の拡大とともに、技術士の知名度や委託された業務の質の向上を図る。

今後、さらに開かれた栃木県支部となるよう会員皆様と共に運営していきたいと願っています。

よろしくご協力をお願いします。

公益社団法人 日本技術士会

栃木県支部 平成29年度年次大会報告

支部幹事 稲葉 茂

1. はじめに

平成29年6月3日、日本技術士会栃木県支部の年次大会がニューみくら(宇都宮市)で開催された。公益社団法人日本技術士会栃木県支部は、発足後5年を経過し、今回は栃木県支部としては6回目の年次大会になる。

年次大会には48名の技術士が出席し、その後の講演会、新合格者歓迎会、懇親会には香川県産業労働観光部長はじめ来賓、十数名の新合格者、協賛団体を含めて50数名が参加し支部発足以来最多の参加人数となった。

2. 議事次第

司会は黒須副支部長、久芳副支部長の開会宣言で始まり、以下の内容で議事進行した。

(1) 支部長挨拶

栃木県技術士会として独自の活動を実施してきたが、本部の公益法人化に伴い関東の8県が支部となり5年が経過した。

昨年は第46回日韓技術士国際会議を日光市鬼怒川温泉にて会員170名の小さな支部が開催した。会議は成功裏のうち終了し、韓国側及び本部から高い評価を得た。協力いただいた会員、協賛団体の皆さんに感謝申し上げる。

今後とも地域に根差した地道な活動を継続していきたいと述べた。



小黒支部長あいさつ

(2) 報告事項

1) 平成28年度事業経過報告、収支実績及び監査報告

久芳副支部長より平成28年度事業経過報告(概要)報告があった。新井幹事より平成28年度収支実績報告があった。また、会計監査結果が黒川会計幹事によって報告された。

2) 平成29年度活動方針について

小黒支部長より、「公益社団法人として日本技術士会の目的に沿った支部活動」また、県支部の基本方針として、①会員の顔の見える会を目指す、②地域の人と文化と技術をつなぐ架け橋を目指す、③会員の拡大と業務拡大に努める。さらに、役員改選の話があり15名の幹事が「90.5%」の信任を受け6月20日より就任することが報告された。④中国浙江省との交流継続、⑤幹事は4S (Speedy、Strategic、Sensitive、Smile) を心がけ本会の活性化に努める等の活動方針が示された。

3) 各委員会の平成28年度実績と平成29年度事業計画

総務委員会黒須、企画・研修委員会宮下、企業支援委員会篠原、広報委員会西谷、国際委員会福田、地域企業支援小委員会羽山、地域支援小委員会稲葉、環境支援小委員会西谷、の各委員長から、

それぞれの委員会活動について平成28年度実績と平成29年度計画の説明があった。

4) 栃木県支部平成29年度収支予算

新井幹事より平成29年度予算の説明があった。

3. おわりに

小黒支部長より2年間、支部長として充実した技術士会活動を送れたことを会員の皆さんに感謝し、退任の挨拶で閉会となった。



年次大会の様子

講演会の報告

支部幹事 篠原正美

平成29年度(公社)日本技術士会・栃木県支部の年次大会終了後、栃木県の中小企業支援策を中心に県活動及び概要について講演していただいた(参加者55名)

テーマ：栃木県の産業政策について

講師：栃木県産業労働観光部長

香川眞史 氏



講師は、ユーモアを入れながら産業労働観光部の主な活動について、導入動機から現状までを説明した。栃木県の産業全体に及び話で内容も豊富で興味ある講演であった。

初めに、まち・ひと・しごと創生総合戦略の概

要と15(イチゴ)戦略について説明された。15戦略とは、2015年に発案され栃木県特産物のイチゴにかけた呼び名となっている。

戦略立案にあたり、最も憂うべき問題として栃木県の人口減少の問題を指摘した。栃木県は昨年、200万人を割ってしまったが、2060年には120万人を下回ることが予想されている。県行政としては150万人を維持したいと考え、若者の定着、雇用の創出、女子学生のUターン促進など重点的に取り組んでいきたいとのこと。

また、県民が、豊かで元気に生活できる施策として、栃木県重点戦略—栃木元気発信プラン—の説明があった。将来に向けた安心・安全な生活基盤を作るための総合的施策である。

15の重点戦略とは以下に示す項目であるが、各項ごとの話題なども聞かせていただいた。

◆基本目標1 とちぎに安定したしごとをつくる

戦略1 ものづくり県の更なる発展と新産業の創出

戦略2 成長産業へ進化する農業の確立

戦略3 林業・木材産業の成長産業化

戦略4 国内外からの観光誘客強化

戦略5 多様な人材が働きやすい就労環境づくり

◆基本目標2 とちぎへの新しいひとの流れをつくる

戦略6 地元とちぎへの若者の定着促進

戦略7 立地環境を生かした企業誘致の推進

戦略8 とちぎへのひとの還流の推進

◆基本目標3 とちぎで結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえる

戦略9 結婚支援の充実

戦略10 妊娠・出産支援の充実

戦略11 子ども・子育て支援の充実

◆基本目標4 時代に合った地域をつくり、とちぎの安心な暮らしを守る

戦略12 暮らしやすいとちぎの「まち」づくり

戦略13 地域をつなぐ広域連携の強化

戦略14 健康長寿とちぎづくりの推進

戦略15 地域包括ケアシステム構築の推進

次に、栃木県の産業構造についての説明であるが、県内総生産は全国16位、製造品出荷額は13位と健闘した。産業構造の栃木県の特徴は、製造業が総生産額の34.8%を占め全国平均

18.4%を大きく上回っていることである。産業別出荷額の最も大きい輸送機械部門では、日産自動車、本田、に続きトヨタ自動車系列となった富士重工業が揃い3大自動車会社の重要拠点となっている。富士重工業は、世界戦略の一環として社名を「スバル」と改め航空部門へのより強い取り組み意思を示している。

さらに、去年は、ロボット事業で有名な「ファナック」の進出、「神戸製鋼所」の大規模発電工場の運転等開始されたが、これらの展開は、北関東自動車道、圏央道などのインフラ整備の寄与するところが非常に大きいと思われる。

県民の生活も潤い一人当たりの県民所得は、全国4位の320万円余りまで到達し、平成25年度より僅かではあるが増加した。一因として、栃木県民の県民性にいろいろな要素が加わり好転したものと考えているとのことである。

さらに、躍進すべくとちぎ産業成長戦略が立案され五つの重点プロジェクトが進められている。特に、人材の育成や人材確保など重点施策が進められている。

より具体的な、産業施策については、自動車など重点5分野における新イノベーションの創出、先端ものづくり産業の育成・強化に取り組み協議会を立ち上げ会員の情報交換等を行っている。栃木県の先端ものづくり業種は、航空機、医療機器、次世代自動車等があげられ世界レベルでのニーズの顕在化が期待されている。

また、栃木県の食には、日本一のイチゴ、かんぴょう、本州一の生乳等豊富な農産物があり、JETROの協力を得て海外販売にも注力され、今後に期待するところである。県知事提案で作られたフードバレーとちぎは、当初の会員300社から現在は820社と増え活発に活動している。海外への日本酒売り込みにおいては、海外の品評会にて優秀14銘柄に栃木県産日本酒の3銘柄が入賞している。

本県では新たな成長産業の振興にも力を入れ、「ヘルスケア関連産業の振興」、「ロボット関連産業の振興」策なども推進している。

産業界においては地域中核企業の活躍に期待が大きく、「ニッチトップ企業」、「地域中核企業」などの支援を強化している。従来の県行政は、平等支援が原則であったが、意識を変え補助金などの活用により「特定企業を伸ばす」ことで勝ち残り策を推進している。

海外市場開拓においては、海外都市との友好

交流など進め総合的な施策を展開している。現在、中国（浙江省）、アメリカ（インディアナ州）、フランス（ヴォークリューズ県）、台湾（高雄市）などと交流している。栃木の農産物は中国、台湾にて放射能輸入規制を受けており早期の解禁に期待を寄せるところである。

産業拠点になる、工場用地は、宇都宮市以南に人気が出ており足利市、野木市等で工業団地を造成しており、工業団地造成はノウハウが必要で経験者の存在が重要である。本県への高い人気は、北関東自動車道、圏央道の開通、に負うところが大きい。

観光においては、JRグループによるディステネーションキャンペーンが平成29年～平成31年にかけての開催が決まり、栃木県のPR及び観光事業の振興に期待が寄せられている。

産業への期待は、生産性向上、事業継続、Uターンによる就職促進、奨学金助成制度による人材確保、等であるが、2017年には技能五輪全国大会、全国アピリンピックを宇都宮市で開催する予定であり、全国の技術者による技を競ってもらっている。

以上、興味ある話を聞かせていただいたが、特に、人材がカギを握っているともとれるストーリーであったと感じた。本県にとっての幸運なインフラの影響も大きかったことも力説されていた。人材育成など県内産業と栃木県支部の連携にも大いに期待できる内容であった。以上



講演会の様子

新合格者歓迎会・懇親会

支部幹事 新井 達雄

宴もたけなわの頃、新合格者の皆さんに自己紹介をしていただいた。

今回は、新技術士7名（建設、農業、化学、電機・電子他）と新たに技術士を目指す技術士補の方3名の方々に参加をいただいた。

多くの皆さんが現役で活躍されており、それぞれの技術経歴が披露され、また、技術士のライセンスを今後活かすための抱負や支部における技術交流への期待が述べられた。

今回参加して頂いた皆様には、是非、日本技術士会に加入して頂き、新たな若い力によって、栃木県支部の活動が活性化し、より発展していくことを期待するところである。

そのためにも、我々現役会員が、魅力ある会造りに知恵を集結する必要性を痛感した次第であります。



新合格者 10名



交流会・法各祝賀会のしめの挨拶（新合格者：高橋氏）

表-1 新合格者

氏名	部門
石原 裕貴	上下水道
菊池 稔	上下水道
笠原 茂世	
福田 尚人	資源工学（個体資源）
高橋 昭博	農業
大嶋 成人	建設（道路）
富田 卓哉	電気・電子
永峯 和茂	機械
楡居 智也	電気・電子
後藤 雄一朗	機械

フェスタmy宇都宮2017

「わくわくどきどきサイエンス」

支部幹事 西谷 元則

今年の「フェスタmy うつのみや 2017」では、昨年同様にかんたん電池ミニカー教室とコイルモータ教室を開催した。さらに、支部会員のできる理科教室メニューを公開し、試験的に子ども達に体験してもらいました。

フェスタmy宇都宮2017

「わくわくどきどきサイエンス」 参加費無料

公益社団法人 日本技術士会 栃木県支部 環境支援委員会
 開催日：5月21日(日) 10:00~15:00(会場 宇都宮市中央市民活動センター)
 申込み：宇都宮市役所 産業政策課 TEL.632-2443
 締切り：5月15日(月)までに電話で申し込みをね。

＜体験学習コース＞

★かんたん電池ミニカー（マグネシウム電池ミニカー）教室（作成したミニカーは差し上げます）
 (1回目 10:00~11:30 定員 15名、 2回目 13:00~14:30 定員 15名)
 みらいの自動車の燃料について勉強します。
 参加者は、みらいの燃料（マグネシウムと塩水）を使ったミニカーを作成し走らせてみます。






自分のミニカーが、牛乳パックのコースをカッコよく走る！

★コイルモータ工作教室
 先着 50名(受付なし)
 10:00~11:30 25名
 13:00~14:30 25名



エナメル線を10回転りとまわし電池と磁石の間で回るシンプルなモータを作ります。(材料は準備済みです)
 「モータはなぜ回る？」の疑問を自分で考えてみましょう！

★理科教室相談窓口 (随時相談にのります)
 近年、小学生の理科はなれが懸念されるなか、私達技術士会は「事前理科教室」を行います。
 夏休み、学童保育、休日などに旨味の団体に伺い、楽しみながら理科を勉強する教室を開催できます。
 理科教室開催を検討されている方は、個別に相談にのりますので当日お話しください、詳細な内容を合わせましょう！



かんたん電池ミニカー教室

体験教室は、市内の小学校に事前にチラシを配布し完全予約制をとりました。午前と午後約2時間を各一回実施し、1回の定員を15名としました。相変わらずの人気で、チラシ配布後直ぐに定員となったと宇都宮市の職員の方から聞きました。

この教室では、以下の内容について15分程度にわたり県支部会員の松原氏（機械部門）に講師をお願いしました。内容は次のとおりです。

今日、勉強すること

1. 地球温暖化とは
2. 二酸化炭素(CO2)をへらすには？
3. 未来の自動車と再生可能エネルギー
4. 金属空気電池自動車のしくみ
5. 自分で作って走らせよう！

勉強した後は待ちに待った「かんたん電池ミニカー」を作成しました。

子どもたちの顔は和らぎ楽しいそうに作成しておりました。完成したミニカーは、牛乳パックで作成したコースで、自分のミニカーを時間の許す限り走行させていました。

小学生の受講者とその保護者を含め50人以上の教室であり好評でした。



コイルモータ教室

コイルモータ教室は随時受付を行い、キットを30セット用意し全てのキットを体験してもらいました。

この教室は、県支部幹事の川上氏（電気電子部門）が日々バージョンアップをし、コイルモータキットを作成していただきました。今回の悪戦苦闘の成果……。次回に期待しましょう！

さらに、紙飛行教室や紙コプター、ぼんぼん蒸気船、ソーラーガーデンライトなど展示しました。

在庫のあった紙飛行教室や紙コプターは、小学生が作成を体験して楽しんでいました。



「平成29年度技術士CPD・技術士業績・研究発表年次大会」における支部会員の受賞報告

支部幹事 福田 一郎

この度、本部主催の以下の大会において、本支部に所属する松本茂氏が研究論文の発表を行い、「最優秀賞」と「論文賞」を受賞したので報告する。

- ・開催日：平成29年6月17日
- ・場 所：機械振興会館（東京都港区）
- ・大会名：平成29年度技術士CPD・技術士業績・研究発表年次大会
（本部CPD支援委員会主催）

1 大会の概要

昭和58年度の第1回大会から数えて35回目の節目となる平成29年度大会は、日本一の論文発表を決める「最優秀賞」を設けたことに特徴がある。論文発表の希望者は、まず「論文要旨」を提出し、受諾後に「論文の提出」が許される。本部事務局の公式発表によると、今年度の応募は、論文提出が許された者の中から22件の論文の提出があり、そのうち論文検討委員会の審査・検討の結果、選考されたものが10件、さらに発表を行ったものが8件であった。

選考された10件については、「論文賞」が授与された。さらに、発表を行った8件については、論文の内容のほかに、当日のプレゼンテーション能力や質疑応答におけるコミュニケーション能力等も加味した上で総合的に評価され、「最優秀賞」1論文、「優秀賞」2論文が授与された。

2 松本氏の研究論文の概要

松本氏が発表した研究論文の概要は、以下のとおりである。

【タイトル】既存土木施設の有効活用に向けた機能向上のための管理に関する提案 -「インフラ・チューニング」、その考え方と適用の可能性-

【要旨】国民の社会・経済活動を維持していくためには、「新たな社会資本の重点的な整備」と併せ「社会資本ストックの有効活用」が重要である。

本論文は後者に焦点をあて、既存土木施設をより有効に活用していくための方策として、「インフラ・チューニング」を提案するものである。

インフラ・チューニングは、社会ニーズに合わせて、既存施設の機能を向上させる管理方法であり、今回の研究論文を通して、その考え方を示した上で、ダム等の3事例により適用の可能性

について考察した。更にこれらの考察を通して、現場に適用していく上での課題を2点整理し、まとめとした。

【キーワード】既存土木施設、社会ニーズ、事後評価、機能向上、インフラ・チューニング



写真1 登壇して発表する松本氏



写真2 受賞者の集合写真 (中央下段が松本氏)

3 所感

松本茂氏[※]は、現在、栃木県庁のインハウスエンジニアとして河川行政に従事する傍ら、私的な活動として学術学会等に研究論文を発表しており、(公社)土木学会の本部委員も務めている。

※)1990年 東京工業大学修了。栃木県庁の本庁・出先、建設省・国土交通省の研究・行政部局等の勤務を経て、現在、栃木県県土整備部河川課に勤務。技術士(建設部門+総合技術監理部門)、博士(工学)。

今回の研究論文は、松本氏の研究領域の一つである「建設マネジメント」の観点から、社会資本全体を俯瞰し論じたものである。インフラの老朽化対策が急務の課題と叫ばれる中で、氏の独創的な論文には、解決に向けた糸口があるように思われる。

松本氏には、今後とも多様な政策課題に対して、研究者の視点も加えて対峙し、取り組んでほしい。

環境支援小委員会主催

「宇都宮市鶴田沼緑地見学会」の報告

支部幹事 井本 郁子

日時：2017年6月4日（日）9時～12時

参加者 15人

宇都宮市鶴田沼は宇都宮外環状線に隣接し、市街地のすぐ横に立地している。この池は嘗て農業用ため池として維持されてきたものであるが、その後周辺の都市化とともにその役割を終えた。しかし、池と湿原にみられる希少な自然の価値は広く人々に認識され、池を囲む緑地約30.9haは、平成12年度都市計画決定により都市緑地としての整備が位置づけられた。その後、レッドデータブックとちぎ2005（栃木県2006）においては、鶴田沼に成立する貧栄養湿原群落の希少性とその保護の重要性が記載されている。現在、約20haが都市緑地として事業認可を受け、その整備がすすめられている。



写真1 ため池を思い起こさせる
沼の南端からの景観



写真2 鶴田沼北に湿地部景観

写真2は、湿原の中の木道から撮影したものである。

表面の植生をはぎ取り、貧栄養の植生の復元を試みている地区。湿原では、現在もミミカキグサやモウセンゴケなどの貧栄養植物が確認されている。

しかし多くの植物はその存続が極めて難しい状況にある。

この湿原の保全と管理の方針策定では、平成4年（1993）から継続された動植物調査、植生復元実験などの結果を踏まえた多くの専門家の助言や提言が基礎となっている。当時から沼の乾燥化や、高草草本群落への遷移、外来種の侵入など多くの課題が指摘されていた。これらに対するきめ細かい管理と、新たな試みは現在も継続されており、「鶴田沼を育てる会」による日々の観察と管理なくしては、現在のような湿原の保全はなかったであろう。



写真3 湿地内の様子

写真3は、湿原の中にみられる浅い水たまり、ハラビロトンボがみられた。ハンノキ林の近くではヘイケボタルが毎年観察されているとのことである。ハッチョウトンボ(市の天然記念物)の本年の確認数は少ない。



写真4 北西部の高台にある富士見平

写真4は北西の台地に位置する富士見平である。ドングリから落葉樹を育てた場所。沼の湧水を守るためにも周辺の緑地を良好に維持する必要がある。

今回、鶴田沼を見学させていただき、市民による管理の意義を再認識し、保全緑地の多様な機能を実感することができました。鶴田沼を育てる会、グリーントラスト宇都宮、宇都宮市緑のまちづくり課のみなさまに紙面を借りて謝辞を申し上げます。



鶴田沼見学会参加者記念撮影

県支部新幹事の新任あいさつ

5月に行われた県支部選挙では、3名の新幹事が新たに選ばれました。

新幹事の皆様の挨拶及び自己紹介を掲載いたします。

幹事 金澤 政和

この度、新幹事を任命されました金澤と申します。どうぞ、宜しく申し上げます。簡単に自己紹介をさせていただきます。生まれも育ちも小山市寒川（その昔、寒川郡と呼ばれ古墳がたくさんありました）です。明るく、大雑把で細かい事にはこだわらない（時々細かくなりますが）性格で雰囲気は大事にします。尊敬する人は児玉源太郎（勿論、会った事はありませんが）です。趣味は囲碁（ざる碁ですが）、旅行くらい。栃木県支部として活動してからまだ3年程の若輩で支部組織の内容もまだ良く分かっておりませんが支部の皆様と協力し合いながら風通しの良い、「見える化」した組織をモットーに頑張っ



ていきたいと思っています。まず自分の活動目標として

①栃木県支部の現状と課題について理解するとともに、今後の方向性を見出す。

②研修委員会に属していますので、「稼げる支部」を目指して、見学会、講演会を精力的に開催する。

③栃木県支部活動に支部の皆様全員が参加できるような魅力のある活動を計画する。

以上の3点を掲げます。そのためにも是非支部皆様のご指導、ご鞭撻、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。

幹事 井本 郁子

1999年に栃木県に暮らしてから18年、人生で最も長く過ごした地になりました。また、小さい頃の家族旅行にはじまり、技術士としての調査・計画事業など、栃木の山と自然には多くの思い出があります。これからも、この多様で美しい栃木の自然の保全について、より深く考え、携わっていきたいと思っています。

氏名：井本郁子

技術士：総合技術監理・建設部門・環境部門、
仕事：(株)緑生研究所、慶應義塾大学政策メディア研究科、東京環境工科専門学校、NPO地域自然情報ネットワーク

幹事 松原 猛

このたび技術士会栃木県支部の幹事を拝命いたしました松原です。今まで役員活動の経験はなく、はたして私のような若輩がお役にたてるのか不安ばかりが募りますが、私のできる範囲で精いっぱい頑張りますので、これからの2年間よろしくお願ひいたします。

わたしは株式会社本田技術研究所に勤めております企業内技術士です。2012年技術士（機械部門）となりました。わたしが栃木県技術士会に入ったのは、さまざまな分野でご活躍されている技術士の方々と知り合い、いろいろな考え方やものの見方を学びたいと思ったからです。



日々会社の中だけで過ごしていると、入ってくる情報は偏り、知らず知らずのうちに世間知らずの井の中の蛙になると危惧していました。これから、県支部の活動を通じて自分自身も研鑽していきたいと思っております。

県支部幹事になって思うことは、会員になる技術士の割合が少ないのではないかと懸念です。自分の周りにも技術士はいます。しかし会員になる人はそれほど多くはありません。その理由は、本県支部の会員に限った課題として、費用対効果が首都圏の日本技術士会に比べ小さいことがあると思います。日本技術士会に毎年会費を払えば、各地で開かれるCPDセミナーや懇親会などに低費用で参加できるはずですが、しかし、本県のような大都市から離れた地域で活動されている方には、なかなか参加の機会がないのが実情だと思います。そこで、これからの県支部は、会員相互のつながり・情報交換の場が得られるというメリットのある会をめざし、それが入会の理由につながるようにしていきたいと思っています。多くの技術士・技術士補の方が、技術士会の活動を通じてお互い刺激しあい、見分を広げることができるようになればよいと考えています。 以上

今回の選挙で選ばれました栃木県支部幹事は下表の15名です。任期2年ですのでよろしく願います。(県支部広報委員会)

表 平成29～30年度 栃木県支部幹事

氏名	部門
宮下 治	(上下水道)
亀田 則男	(建設)
西谷 元則	(上下水道)
谷口 雅昭	(建設)
新井 達雄	(建設)
稲葉 茂	(建設・総合)
柏崎 和久	(経営工学)
黒川 昌司	(上下水道)
篠原 正美	(農業)
黒須 重富	(建設・総合)
久芳 良則	(衛生工学・総合)
福田 一郎	(建設・総合)
金澤 政和	(電気電子)
松原 猛	(機械)
井本 郁子	(建設・環境・総合)

支部長退任挨拶

前支部長 小黒幸市

7月5日、本部理事会で黒須重富氏が当支部の新支部長に任命され、バトンタッチをいたしました。力不足を支部役員・会員の皆様、協賛団体の皆様に支えられて任期の2年間を務めさせて戴きました。厚く御礼申し上げますと共に深く感謝申し上げます次第です。任期中の最大のイベントは昨年10月初旬、日光鬼怒川温泉で開催された「第46回日韓技術士国際会議」でした。小さな栃木県支部で果たして上手く企画運営できるかを心配しましたが、田中運営委員会委員長・福田事務局長の下、会員40数名が運営に携わってくれたお蔭で立派に成し遂げられ、本部始め関係者から賛辞を戴いたことは思い出に残る嬉しいできごとでした。この時改めて感じたことは支部内の結束の強さでした。

栃木県支部も他地区の県支部同様、様々な課題が山積しておりますが、新体制の皆様にも今後の運営をお願いいたします次第です。

今後は一支部員として支部活性化に汗を掻きたいと思っております。

皆様大変お世話になりました。ありがとうございました。

平成29年度栃木県支部行事予定表

県支部 広報委員会

本年度の県支部行事予定表は、次ページのとおりです。

年次大会に発表した行事予定表から変更がありますので再度ご確認ください。

企画・研修委員会では、この行事予定表には記載はありませんが、CPD研修会を数回予定しています。

研修内容・時期等が決まりましたら、E-mailまたは県支部ホームページで案内いたします。

協賛団体の社員の方も大歓迎ですので、遠慮なくご参加ください。

また、会員の方で積極的の支部活動にご協力いただける方も募集しています。各委員会もしくは広報委員会の西谷まで連絡頂ければ、窓口となり委員会へ勧誘いたします。一度参加し、活動の理解を深めていただきたいと思います。

お待ちしております。

連絡先: tochigi@engineer.or.jp 又は、
m-nishitani@arp-mizukankyou.jp

平成29年度 栃木県支部行事予定

月	日	曜日	総務委員会	企画・研修委員会	広報委員会	国際委員会	企業支援委員会	地域社会貢献委員会	市貝町プロジェクト	CPD対象	
	随時	—	月締め清算		ホームページ運営	奇数月中旬例会開催				—	
4月	8日	土	第1回役員会					第1回環境支援小委員会・理科研究会			
	29日	土					第1回企業支援委員会				
5月	13日	土	第2回役員会					ファミmy宇都宮準備会			
	21日	日						ファミmy宇都宮			
6月	3日	土	年次大会 第3回役員会	講演会 合格者祝賀会	第1回 広報委員会					●	
	4日	日						鶴田沼見学会		●	
	17日	土							第1回会合		
7月	8日	土	第4回役員会					第2回環境支援小委員会			
	16~17日		技術士二次試験								
	25日	火			会報11号 原稿締切						
	未定	—				第1回 国際交流研究会	第2回 企業支援委員会				
8月	5日	土			会報11号 編集完了						
	20日	日			会報11号 発刊準備						
9月	9日	土	第5回役員会					第2回理科教育研究会			
	10日							エンジョイカガク			
	11日						宇大企業 交流会出展				
	下旬	—						子ども ワクワク教室			
	未定	—				第2回 国際交流研究会		よささ ウォーク			
10月	8日	日						富っこ フェスタ			
	14日	土	第6回役員会					第3回環境支援小 委(ECOテック準備)			
	26~28日	金~日				第47回日韓技術士 会議(釜山)				●	
	未定	—		科学技術講演会		支部・学院 (浙江省) 党書調印	第3回 企業支援委員会		第2回会合	●	
11月	3~4日	土~日						ECOテック&ライフ とちぎ2017		●	
	11日	土	第7回役員会		第2回 広報委員会						
	未定	—				第3回 国際交流研究会 第1回支部・学院 交流会	足利銀行 ものづくり出展				
12月	9日	土	第8回役員会	講演会 忘年会						●	
	15日	日			会報12号 原稿締切						
	25日	水			会報12号 編集完了						
1月	20日				会報12号 発刊準備						
	未定	—				第4回 国際交流研究会	第4回 企業支援委員会				
2月	10日	土	第9回役員会								
3月	10日	土	第10回役員会						第3回会合		
	未定	—				第5回 国際交流研究会					

※ 赤字は年次大会の資料から変更になった行事

栃木県支部会報広場

《連絡事項》

- ・栃木県支部の連絡先の変更

9月1日より栃木県支部の電話及びファクシミリの番号が変わりました。

TEL : 028-678-8600/FAX : 028-678-8630

- ・訃報

県支部でご活躍された富澤廣三様（H29.5.5 74歳）が逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り致します。

＝コラム＝（広報委員会 大岩正通）

小貫観音堂（おぬきかんのんどう）

今回は、芳賀郡茂木町上小貫地区の「小貫観音堂」を紹介します。

旧円満寺境内の仏堂で、正徳2年（1712）の建立と伝えられています。

三間四方向拝一間付き寄棟造りの建物で、堂内には文永8年（1271）造像銘の十一面観音立像が安置されています。内陣、外陣が独特の形式で彫刻、絵画類はとても素晴らしい。

所在地：芳賀郡茂木町小貫 968 番地
文化財：栃木県指定有形文化財



広報委員長のよもやま話

今回から私のよもやま話を始めます。今回は技術士試験が終わった翌日に遊びに行った日光市足尾地区をご紹介します。

左写真の旧小滝橋は、明治18年に取明けた小滝坑につながり、長さ約27mと短く大正15年に架設された。橋台は石積み、坑口簡易な装飾が施されています。

右写真はわたらせ渓谷鉄道「通洞駅」。ちょうどトロッコ電車が出発！銅でできたモニュメントが・・・

ちょうどお昼となり駅付近の「さんしょう食堂」でランチ。「さんしょうポリタン」を食べました。結構おいしかったです。皆さんも一度行ってみると小さな感動が沢山ありますよ。



協賛団体の紹介



株式会社 篠原設計

～人に街に豊かな未来(あす)を創る～

代表者名：篠原 直哉
所在地：栃木県真岡市長田 598 番地

URL：http://www.sdc1971.com
E-mail：info@sd1971.com
TEL：0285-83-6000
創立年月日：昭和46年9月23日
従業員：26人

業務内容：
物件移転計画立案、通常損失補償調査・算定
工事損害事前・事後調査、GPS測量(RTK対応)
道路・河川・用地等測量一般
道路・河川等土木設計・積算
一般建築設計監理
土地区画整理全般
市街地開発等調査計画

昭和46年9月当社創業以来、以下の社是を掲げて会社を運営してまいりました。

社是

わが社は創造・誠実・効率・心豊かを、基本に置き英知・情熱・融和をモットーとして顧客ニーズにマッチした成果品を効率的に提供し社会に貢献する。

更に日常業務に際し「ハウ(報告)レン(連絡)ソウ(相談)」を徹底し又、社員のスキルアップに絶えず留意して社是の精神でまいります。



協賛団体の紹介(五十音順)

当支部に協賛戴いている団体です。

株式会社 イケヤフォーミュラ	栃木県支部会報 7号紹介
宇都宮測量 株式会社	栃木県技術士会報18号紹介
株式会社 エネルギー応用技術研究所	
晃洋設計測量 株式会社	栃木県技術士会報12号紹介
株式会社 三和電機	
株式会社 真和技研	栃木県支部会報 10号紹介
★株式会社 篠原設計	
株式会社 ダイミック	
株式会社 中央土木工学研究所	栃木県支部会報 創刊号紹介
東亜サーバイ 株式会社	栃木県技術士会報14号紹介
東洋測量設計 株式会社	栃木県支部会報 3号紹介
株式会社 トキタ・ac	栃木県支部会報 5号紹介
株式会社 栃木用地補償コンサルタント	栃木県技術士会報15号紹介
有限会社 那須化成	栃木県支部会報 9号紹介
日研測量 株式会社	栃木県支部会報 4号紹介
日昌測量設計 株式会社	栃木県技術士会報16号紹介
株式会社ピーシーレールウェイコンサルタント	
	栃木県支部会報 8号紹介
株式会社 富貴沢建設コンサルタンツ	栃木県支部会報 6号紹介
富士コンサルタンツ 株式会社	
芙蓉地質 株式会社	
株式会社 水環境プランニング	栃木県技術士会報17号紹介
やまこ産業 株式会社	栃木県支部会報 2号紹介
人創り工房 Y&Kコンサルティング	

上記団体を順次ご紹介させていただきます。「★」は当号の紹介です。

編集後記

今年は、栃木県支部の役員選挙がありました。本県支部では定年制を設けており、支部長を含め3名幹事が退任いたしました。新任には、これまで副支部長の黒須氏を新支部長に、さらに県支部活動で活躍が期待される新幹事3名がかわりました。

新体制では、組織の改革・活動の拡充などが期待されています。関係団体、協賛団体、会員の皆様これまで以上のご理解とご協力を賜りたいと思います。

また、CPD研修活動を積極的に行っていくとのことですので、技術士としての自己啓発など、ご参加をお待ちしております。E-mailやホームページで連絡いたします。

連絡事項として、県支部の電話番号が変わりましたので本誌「栃木県支部会報広場」でご登録をお願いします。

広報委員会は本部ホームページを活用し、会員の方々に情報を伝達していきます。定期的に関覧してください。

http://www.engineer.or.jp/c_shibu/tochigi/

公益社団法人日本技術士会 栃木県支部 会報 第11号 2017年8月発行

発行者 栃木県支部(支部長 黒須 重富)

広報委員会：委員長 西谷元則

副委員長 谷口雅昭、長山/洲穂

委員 大島晃二、大岩正通

事務局 〒321-0954

宇都宮市元今泉5丁目9-7 宇都宮まちづくりセンター内

Tel：028-678-8600/Fax：028-678-8630